

第6回高校生等の自殺予防対策に関する委員会（議事概要）

1 日 時 平成 25 年 10 月 24 日（木） 18:30～20:30

2 場 所 兵庫県民会館 地下 B101 号室

3 会議の概要

- (1) 次長挨拶
- (2) 教育委員会メンバー紹介
- (3) 前回の事例から
- (4) 具体的な自殺予防対策について
- (5) 課長挨拶

4 協議

(1) 資料を用いて前回までの協議内容につき確認（事務局）

- ・自殺事案について
- ・自殺の原因について
- ・対策について

(2) 各委員から出された意見

（委員）中間報告書骨子を示していますが内容について、漏れている点や修正したほうがよい点などがありましたらご意見を出してください。

（委員）青少年期とあるが幅広く感じるので、高校生対象であれば青年期としたほうがしっくりくるのではないだろうか。

（委員）指摘のとおり、高校生は思春期なので、青年期としたほうが的を絞りやすく書きやすいと思う。青年期に変更することで問題ない考える。

（委員）「心の危機を乗り越えるには」と「心の危機に気づいたときに」は内容がかぶっているので「心の危機に陥ったときには相談しよう」に変え、新たに「友人の危機に気づいたときに大人につなぐ」という項目に変更する必要がある。

（委員）文章完成法は教師が生徒の状態を把握するのに良いが、生徒自身がセルフチェックをすることも重要ではないか。心の状態や人間関係についてダイアグラムを作成し、平均より飛び出しているときは危ないと自分自身で気づかせるようなチェックリストを作成する必要がある。

（委員）高校生に授業の中で提案された、セルフチェックをすることは可能なのか。

（委員）ホームルームなどで実施することは可能だと思う。しかし、事前に教員が理解していないと生徒に意図が通じず、怖いと考える。実施する場合は、教員に十分な研修が必要で、生徒にポイントを伝えられ、質問にも答えられるレベルにする必要がある。

- (委員) 心の問題、心の病への理解を広げることも重要である。
- (委員) 実際に自殺予防の授業をする場合、教材は何を使用し、何時間で実施するのかなど具体的な指示が必要ではないか。
- (委員) 作成した冊子が授業の教材となる場合もある。
- (委員) 1年生では何を、2年生、3年生ではと具体的なモデル案があれば授業をやりやすいのではないか。
- (委員) 指導案は来年度作成することで考えている。また学校の実態に応じて授業を実施してもらえよう、具体的に何年生で何をするかは示さないほうがよいのではないか。
- (委員) 以前、過去の事例を検討した中で、長期休業中のあとに自殺が発生した事例が数件あったことから、長期休業中の前に、セルフチェックシートを用いて自己分析することも大事と考える。
- (委員) 自分の身体の中から出てくる危険信号は何なのか、自分自身で気がつき対応することも重要である。
- (委員) 自分の危機に気がついたらどう対処するのか。友達の危機に気がついたらどう対処するのかを考えさせ、教える必要がある。
- (委員) 学校の中でやれることは何なのか。心理的な問題に気づき、関係機関につなげるなどの対応で自殺の件数は減少するのではないか。
- (委員) 中学生や高校生は報道による、周囲の死に影響されやすい。
- (委員) 自殺については社会全体で取り組む必要がある。
- (委員) 社会全体で取り組むことは大事だが、まず学校現場でできることを提言し、何らかの手を打つことで、何かが変わり、少しは効果があるはずである。
- (委員) 新入生について中学と連携するが、中学校により対応がまちまちで重要な情報が共有できないことがある。
- (委員) 高校にはあまりいないが、スクールソーシャルワーカーの役割が必要である。
- (委員) アンケート調査で出てきた生徒のフォローをどうするのも重要である。
- (委員) 保護者と学校を結び付けるような話ができればいい。また心情的な話をする場所も必要ではないか。
- (委員) 危険性の高い生徒が出てきたときにどうするのか。
- (委員) 危険性の高い生徒には、専門機関につないだり、保護者との連携など具体的な対応策を提示する必要がある。
- (委員) 自殺予防教育を行うにあたっての留意点を確認する必要がある。